



～ ふるさとを愛し 自ら学び 未来に挑戦する建屋っ子の育成 ～

建小だより

養父市立建屋小学校 学校だより

令和4年6月14日 No. 6



第1回オープンスクール開催 「ふるさとキャリア教育」

6月10日（金）～11日（土）の2日間、保護者の皆様を対象としたオープンスクールを実施しました。コロナ禍ということで、今回も地域の皆様をお招きすることは出来ませんでした。のべ68名の保護者にご来校いただきました。

1日目の午後は、学校給食センターの奥山栄養教諭に、「給食ができるまで」と題して講話をしていただきました。普段何気なく口にしている給食が、生産者から栄養士、調理員、配送員など多くの方の手と心を経て届けられている「ありがたいもの」であることに気づくことができました。また、養父市の子ども達の健康と安全のために、調理の過程で様々な配慮がされていることについても知ることができました。



給食を食べる時だけでなく、食事をする際の「いただきます」や「ごちそうさまでした」「ありがとうございます」の言葉が、子ども達の心の中で「感謝を伝える言葉」に変わっていくことを願っています。

続いて2日目の午後は、大谷幸雄氏（建屋出身）による講演「高峰への挑戦」でした。

7,000メートル級の高峰・ Communism峰に登頂した際の体験や、建屋で過ごした幼少期についてお話ししていただきました。「山登りの苦しさやしんどさを体験した後は、日常生活の中であまりしんどさを感じなくなった。」と話された大谷さん。氷ノ山登山や瀬川山登山を経験した5・6年生の心に響く言葉でした。

あきらめず「挑戦」し続けることの価値や、困難に粘り強く立ち向かうたくましさを、大谷さんの生き方から学ぶことができました。「建屋の子ども達のために、何か自分に出来ることを」との大谷さんの思いが、子ども達に届いた一日でした。心から感謝申し上げます。



まずは登山グッズの紹介から

はりきって授業に臨む子ども達

たくましく成長した自然学校

5月30日（月）～6月3日（金）の5日間、5年生7名がそろって自然学校に行ってきました。養父・大屋連合（養父小、広谷小、大屋小、建屋小の計76名）の児童が一緒になって、山や川、海での自然体験を満喫しました。ここ数年、コロナの影響で他校との交流がほとんどなかった子ども達にとって、同世代の仲間と過ごす5日間の「集団生活」は、本当に意義深いものとなりました。



テレビやゲームのない生活、決められた時間・ルールの中での生活、家族に会えない生活、欲しいものが手に入らない生活……どれもこれも初めての体験。わがママが言えない不自由さや気苦労から気が滅入ってしまう子や、家族と離れた寂しさから涙がこぼれてしまう子もいましたが、4校の仲間が支え合い励まし合って最終日を迎えることができました。仲間の大切さや家族のありがたさ、自然の厳しさや豊かさなど、たくさんの学びを得ることができました。自然学校の運営に携わってくださった多くの皆様、保護者の皆様、本当にありがとうございました。



5日目は竹野スノーケルセンターで磯観察をしました。軟体動物の「アメフラシ」「ナマコ」がいました。アメフラシは、体にしげきを与えると、むらさき色のえき体を出しました。びっくりしました。ナマコはプニプニだった～（気持ち悪かった。）ヒトデも見て、1分くらいそのままにしておくで、白いきゅうばんのような物を出しました。手に乗せていたので、くすぐったかったです。（高瀬 杏珠）

最後に心に残ったことを書きます。4位はカヌー・カヤック。初めて乗るから心配だったけど、乗れてよかったです。3位は登山です。ものすごくしんどかったけど、坂本先生のおかげで最後までがんばって行けました。2位は鉱山探検です。ビデオを見たり鉱山に行ったりして、明延鉱山のこともよくわかってうれしかったです。1位はキャンドルサービスです。キャンプファイヤーは雨でできなかったけど、キャンドルサービスはできてうれしかったです。火の神や火星人や木星人が見ているのも楽しかったです。またしたいし、体験していない人にはしてほしいです。（藤原 辰朗）



「あいさつ日本一」に続いて、6月は「そうじ日本一」をめざします



6月の生活目標

心をこめて
そうじをしよう

「学ぶ者は、^{こと}事を^{いと}厭い
^{ろう}勞を^じ辞すべからず」

○学ぶ者は、仕事やはたらくことを嫌がってはいけない。